幼保小の架け橋プログラムのモデル地域における成果に係る調査研究【結果の概要】

東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター
野澤　祥子

調査概要

【目的】

「幼保小の架け橋プログラム」に採択された19の自治体（以下、採択自治体）と、各採択自治体域内の園・校等の取組状況や現状の把握、さらに全国自治体の現状を把握し、その成果を検証すること。

【調査内容】

令和4、5、6年度に以下を実施した。

1. 事前把握フォーマットによる採択自治体からの資料提出
2. 事前把握フォーマットの内容を踏まえた、採択自治体担当者へのオンラインヒアリング調査
3. 現地の園・校施設を訪問・視察、管理職・担任に対する実地ヒアリング調査
4. アンケート調査 （採択自治体担当者、採択自治体以外の全国自治体教育委員会の幼保小連携担当者、採択自治体内の園・校の管理職及び担当教員）

採択自治体一覧

自治体のタイプ	採択されたモデル地域の自治体
都道府県	北海道、岐阜県、滋賀県、広島県、山口県、高知県
市町村	大館市、白石市、西会津町、川越市、横浜市、袋井市、掛川市、京都市、枚方市、箕面市、津和野町、高松市、竹田市

本報告の内容

1）アンケート調査の集計結果

2）アンケート調査の自由記述の質的分析結果

3）自治体、園・校でのヒアリングの質的分析結果

１）アンケート調査の集計結果

アンケート調査の概要

回答者

【自治体】 都道府県と市町村（採択自治体以外の自治体、23区含む）

- 担当者　19の採択自治体の「幼保小の架け橋プログラム」の担当者、及び全国のその他の自治体（採択自治体以外の自治体）の幼保小連携の担当者
- 採択自治体の架け橋期のカリキュラム開発会議メンバー、架け橋期のコーディネーター（別の名称であっても準ずる役割を担う者）

【園】 採択自治体のみ

- 採択自治体域内の園　管理職（1名）
- 採択自治体域内の園　5歳児担任（1名）

【小学校】 採択自治体のみ

- 採択自治体域内の小学校　管理職（1名）
- 採択自治体域内の小学校　1年生担任（1名）

1）アンケート調査の集計結果

①自治体の取組

②採択自治体の園・校の連携状況

③採択自治体の園・校の変化の認識

④架け橋期の教育における課題

1）アンケート調査の集計結果

①自治体の取組

②採択自治体の園・校の連携状況

③採択自治体の園・校の変化の認識

④架け橋期の教育における課題

回答した全自治体

幼保小接続の重視度

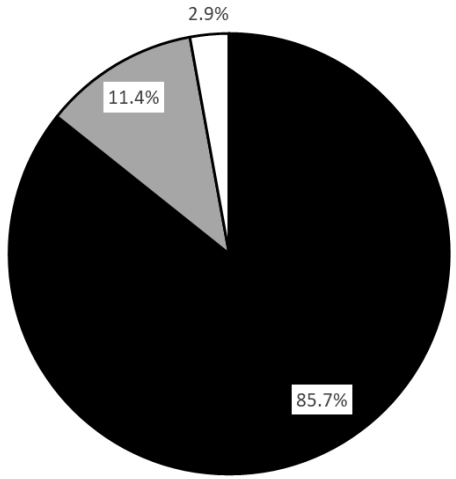
- 3年間を通じて、自治体の9割以上が「重視している」と回答

都道府県

Q4.
貴自治体では、幼保小の接続をどれくらい重視していますか？
（１つだけ選択）

令和6年度

n ：35

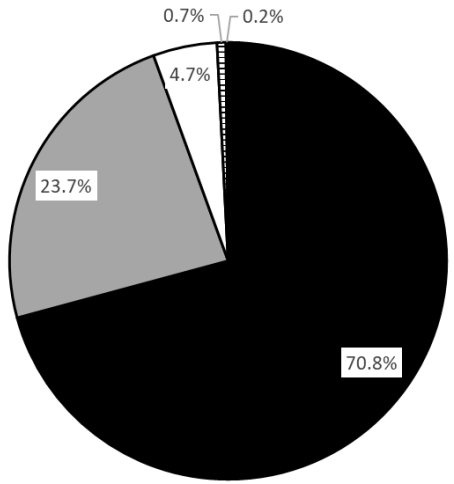


市町村

Q4.
貴自治体では、幼保小の接続をどれくらい重視していますか？
（１つだけ選択）

令和6年度

n ：613



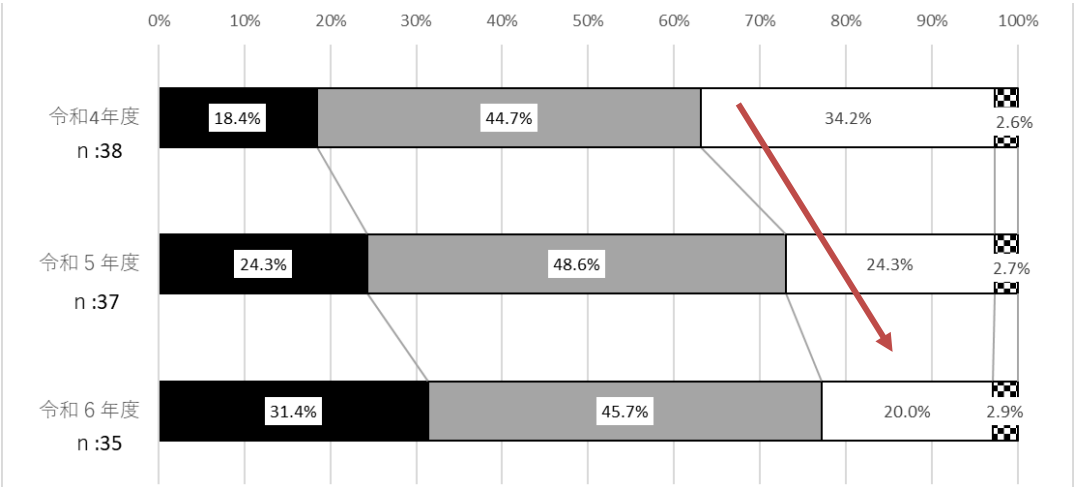
回答した全自治体

架け橋期のカリキュラム開発会議の設置

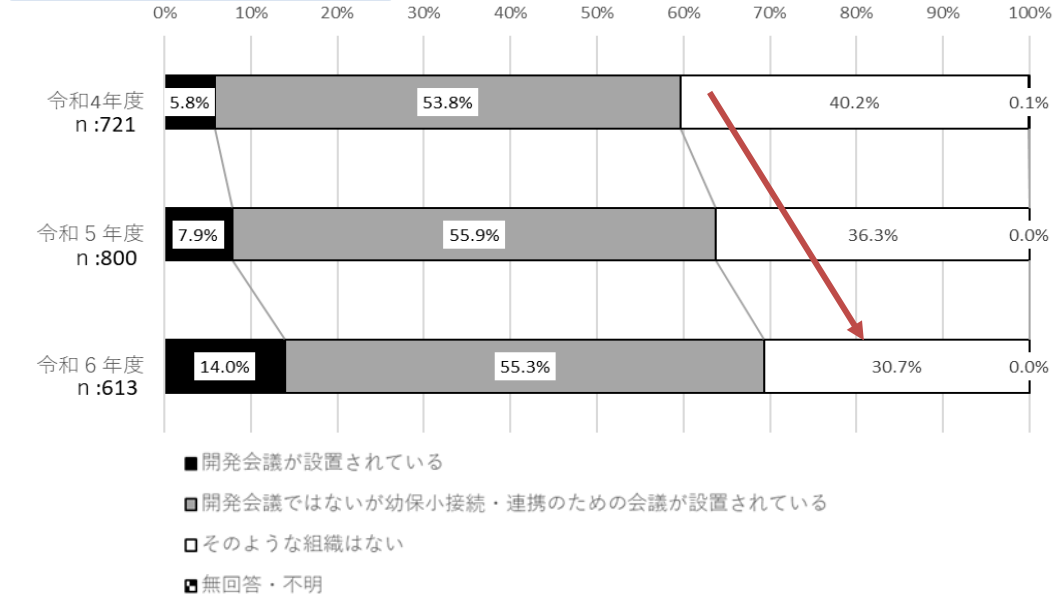
- 架け橋期のカリキュラム開発会議の設置が増加

Q6. 架け橋期のカリキュラムに関して、開発会議およびそれに相当する幼保小接続のための組織は設置されていますか？　（1つだけ選択）

都道府県



市町村

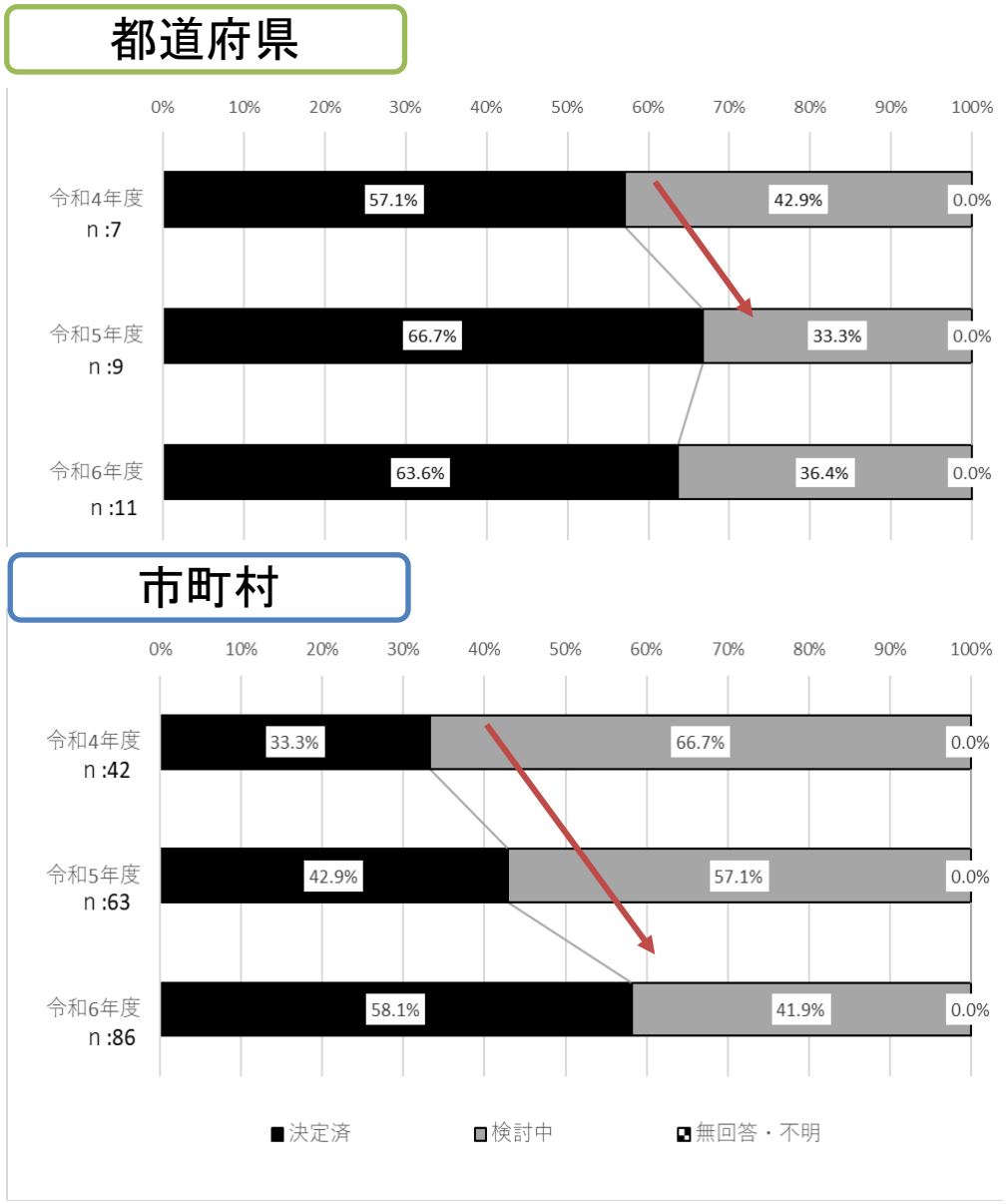


開発会議設置済み
と回答した自治体

架け橋期のカリキュラムの方針の検討状況

- 架け橋期のカリキュラムの方針決定済みも増加

Q12. 架け橋期のカリキュラムの方針の検討状況について、当てはまるものを選択してください。
（どちらか一方を選択）

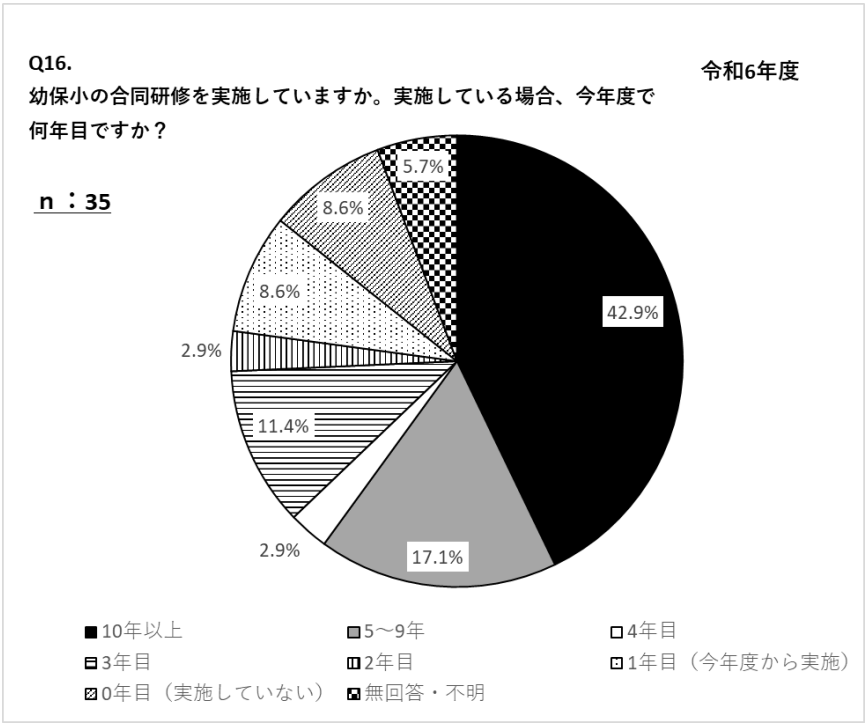


回答した全自治体

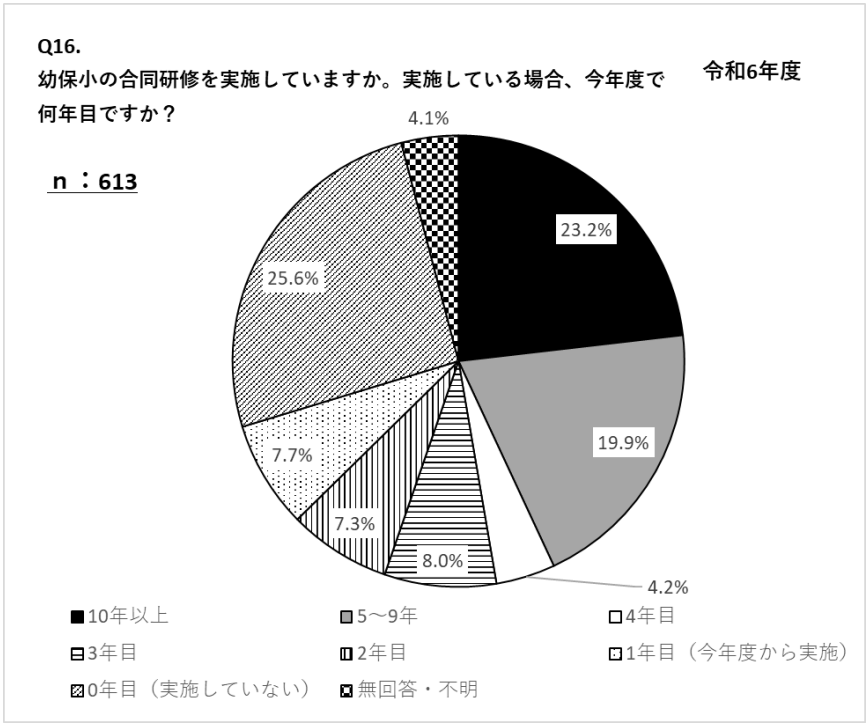
幼保小合同研修の実施状況

- R6　幼保小合同研修の実施率
  都道府県: 85.7%
  市町村: 70.3%
- 効果:「関係者の共通理解の深化」
  「意識向上」

都道府県



市町村



1）アンケート調査の集計結果

①自治体の取組

②採択自治体の園・校の連携状況

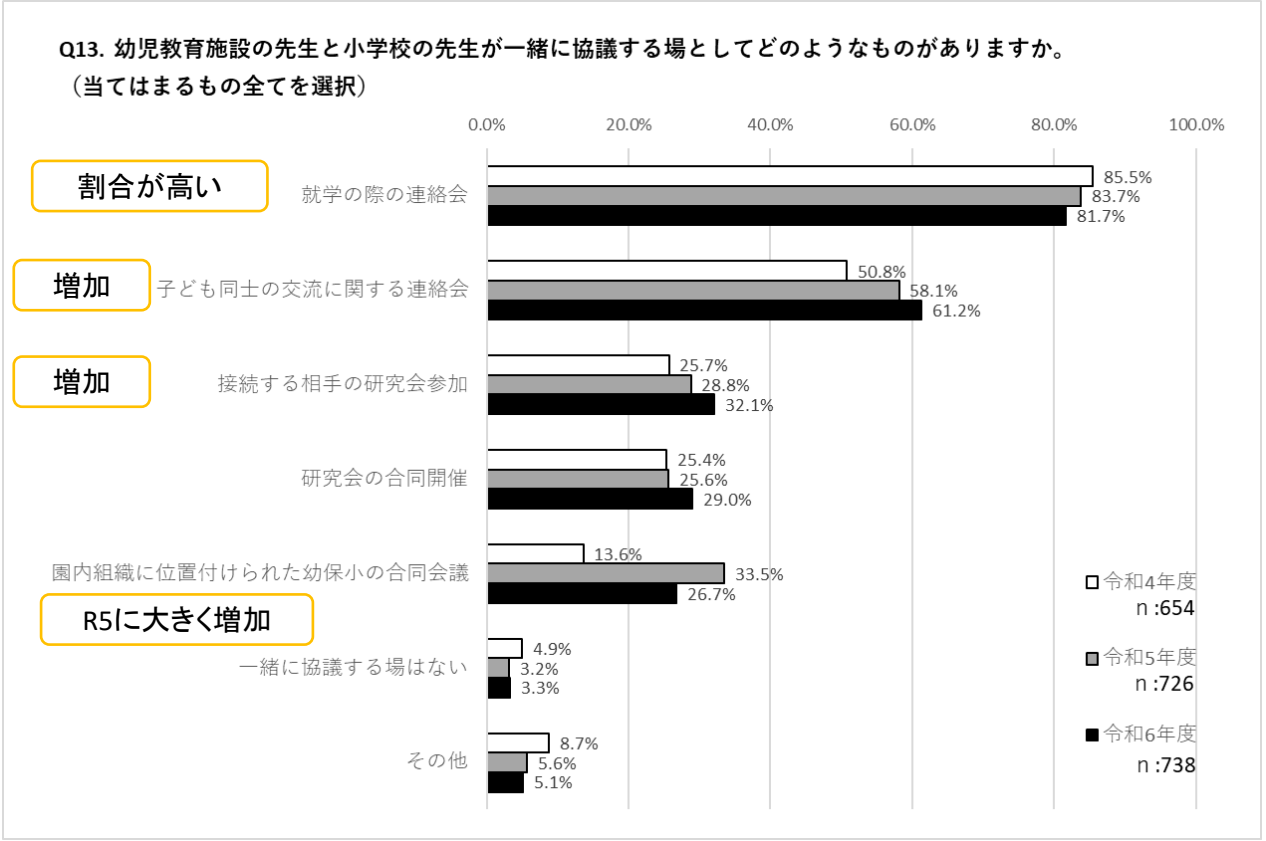
③採択自治体の園・校の変化の認識

④架け橋期の教育における課題

採択自治体

園の連携状況（園管理職）

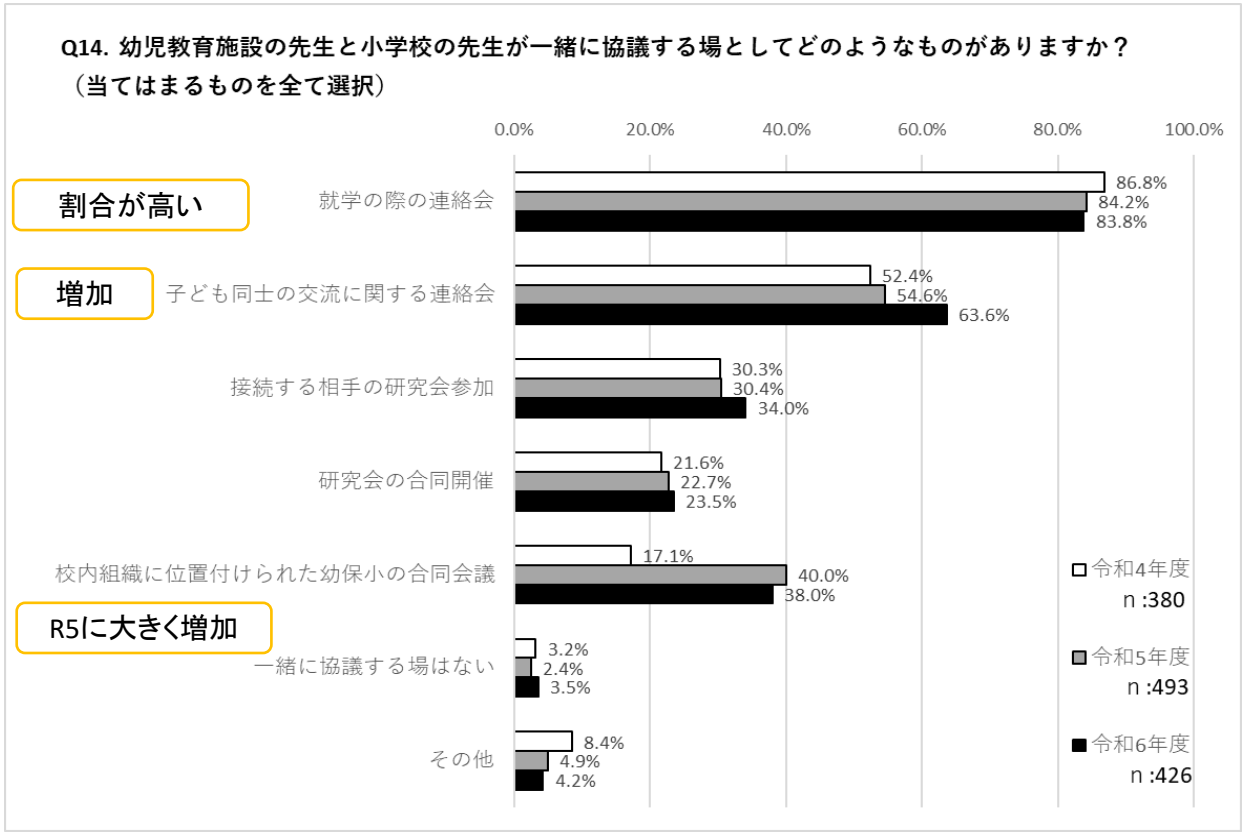
- 就学の際の連絡会は割合が高い
- 交流に関する連絡会、接続する相手の研究会参加が増加
- 園内組織に位置付けられた幼保小の合同会議はR5に大きく増加



採択自治体

小学校の連携状況（小学校管理職）

- 小学校就学の際の連絡会は割合が高い
- 交流に関する連絡会は割合が増加
- 校内組織に位置付けられた幼保小の合同会議の増加



1）アンケート調査の集計結果

①自治体の取組

②採択自治体の園・校の連携状況

③採択自治体の園・校の変化の認識

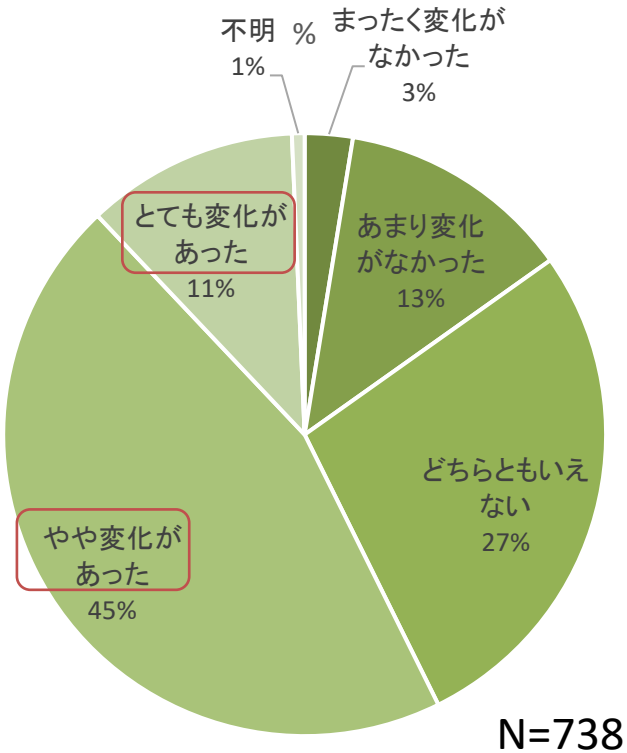
④架け橋期の教育における課題

採択自治体

子供への関わりや指導方法の変化（園管理職・担任）

管理職

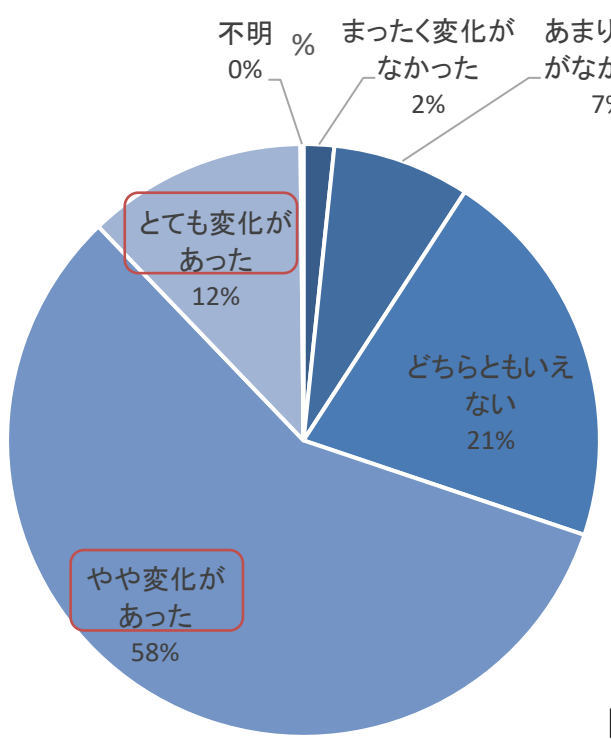
令和6年度



N=738

担任

令和6年度



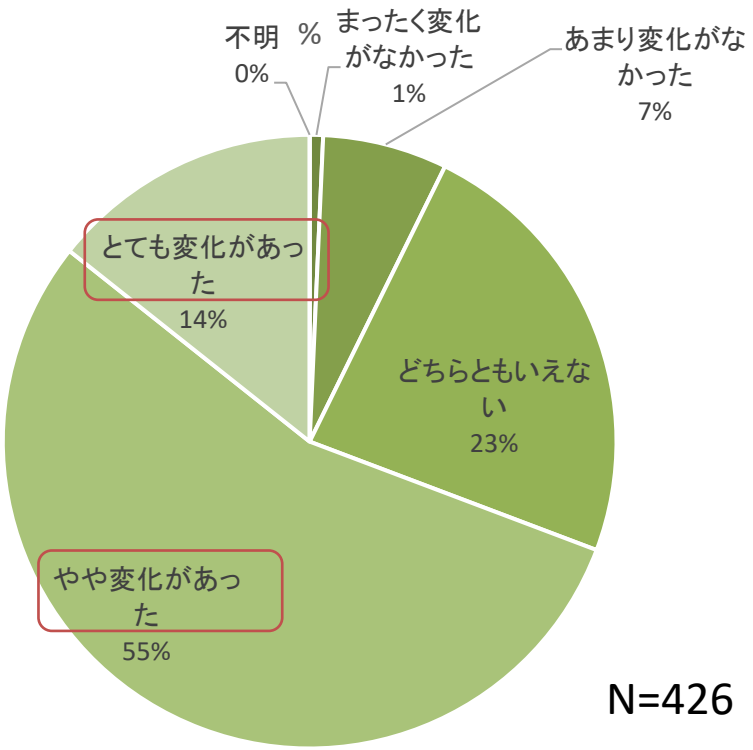
N=600

採択自治体

子供への関わりや指導方法の変化（小学校管理職・担任）

管理職

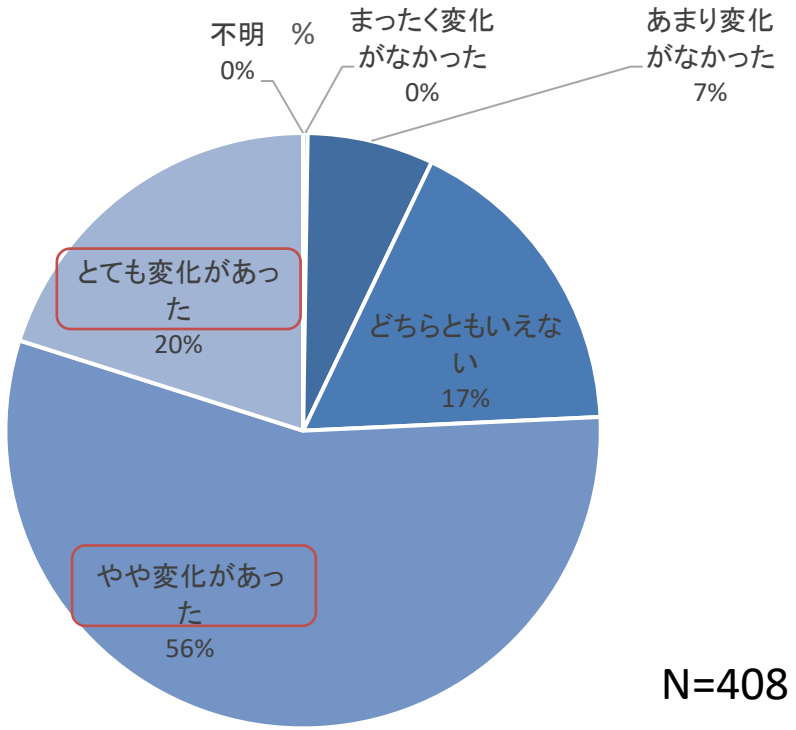
令和6年度



N=426

担任

令和6年度



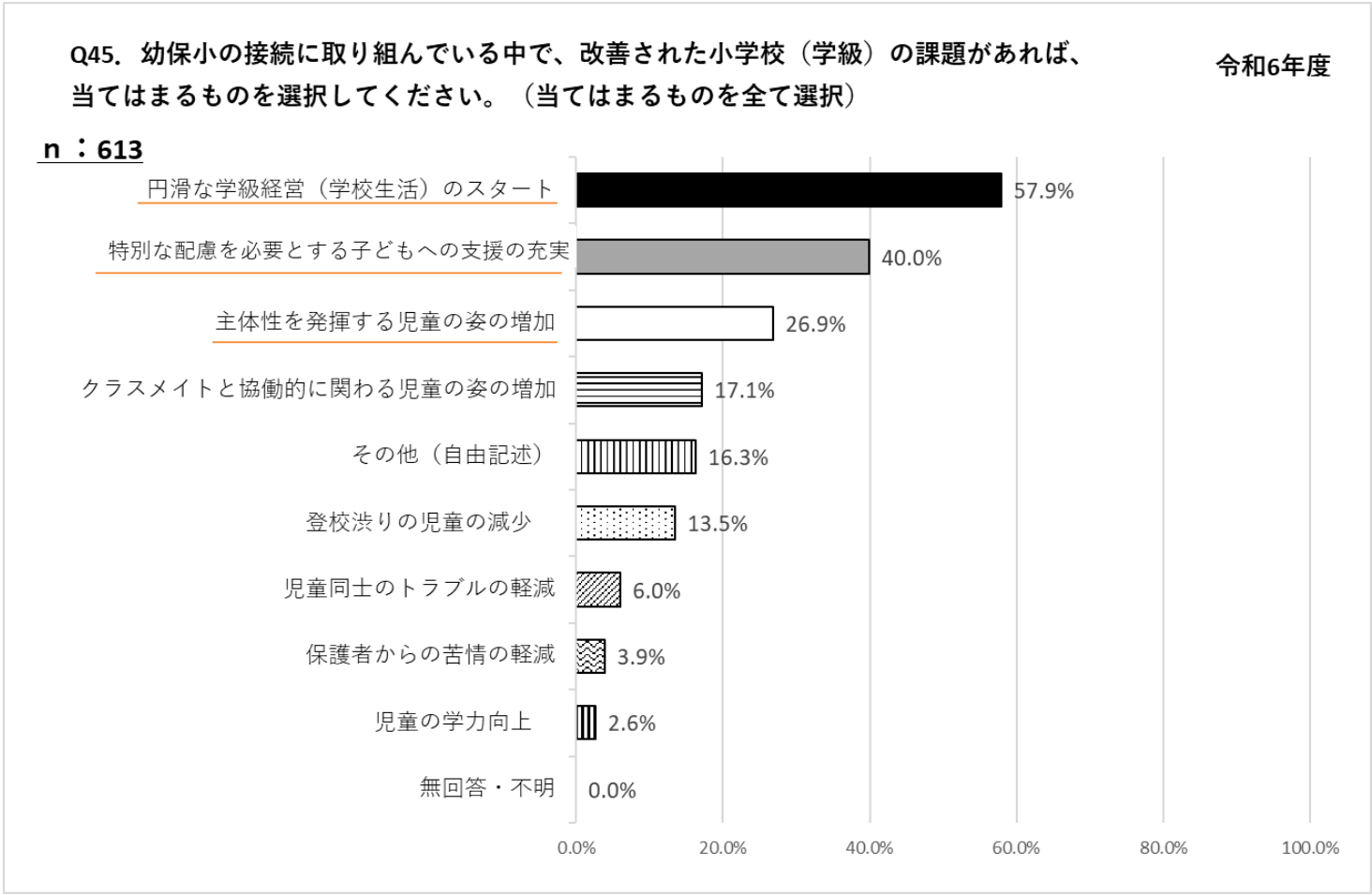
N=408

採択自治体

改善された小学校の課題（小学校管理職・担任）

管理職

- 円滑な学級経営（学校生活）のスタート
- 特別な配慮を必要とする子供の支援の充実
- 主体性を発揮する児童の姿の増加



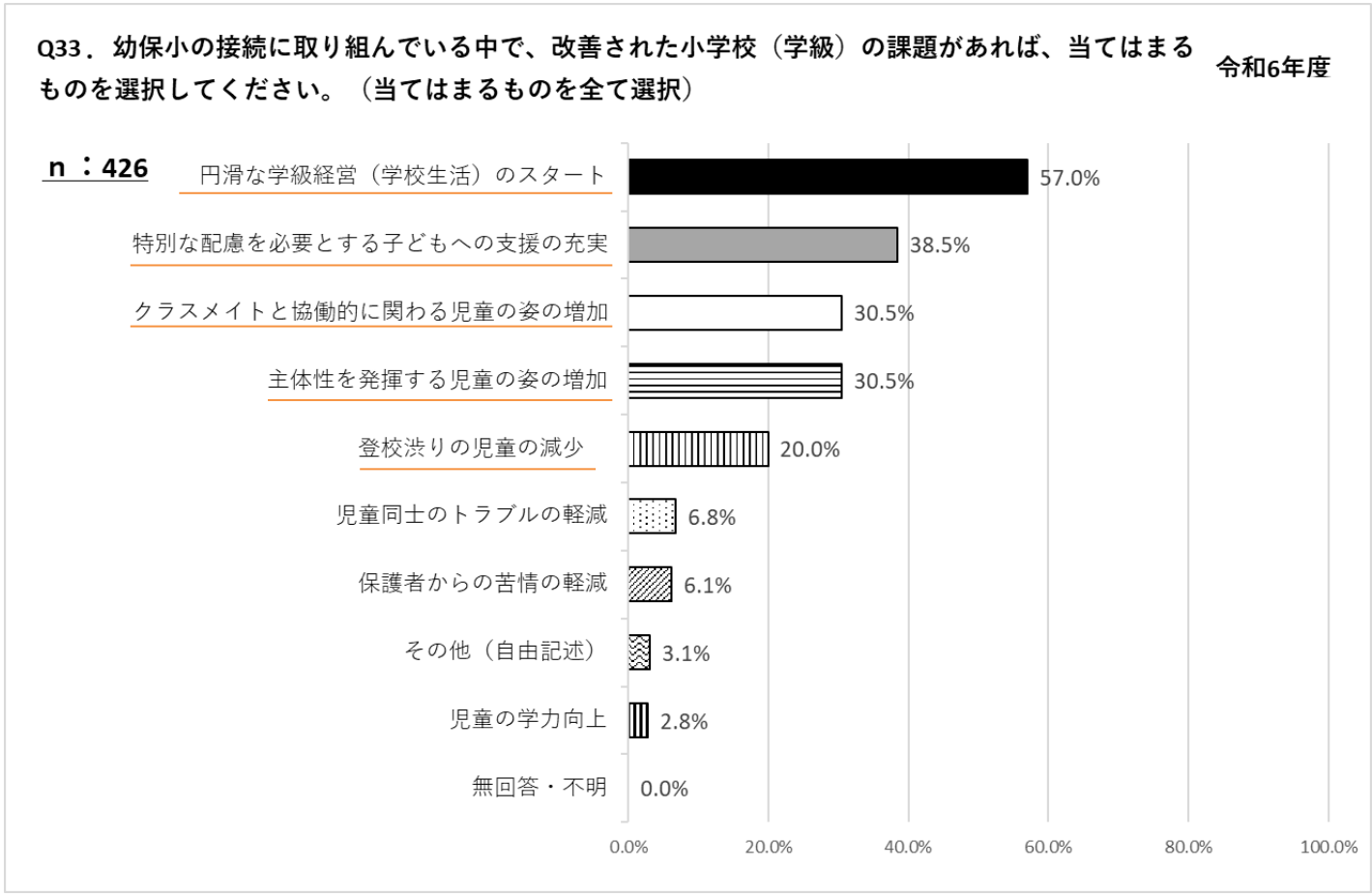
採択自治体

改善された小学校の課題（小学校管理職・担任）

担任

- 円滑な学級経営（学校生活）のスタート
- 特別な配慮を必要とする子供の支援の充実
- クラスメイトと協働的に関わる児童の姿の増加
- 主体性を発揮する児童の姿の増加

※登校渋りの児童の減少も20%



1）アンケート調査の集計結果

①自治体の取組

②採択自治体の園・校の連携状況

③採択自治体の園・校の変化の認識

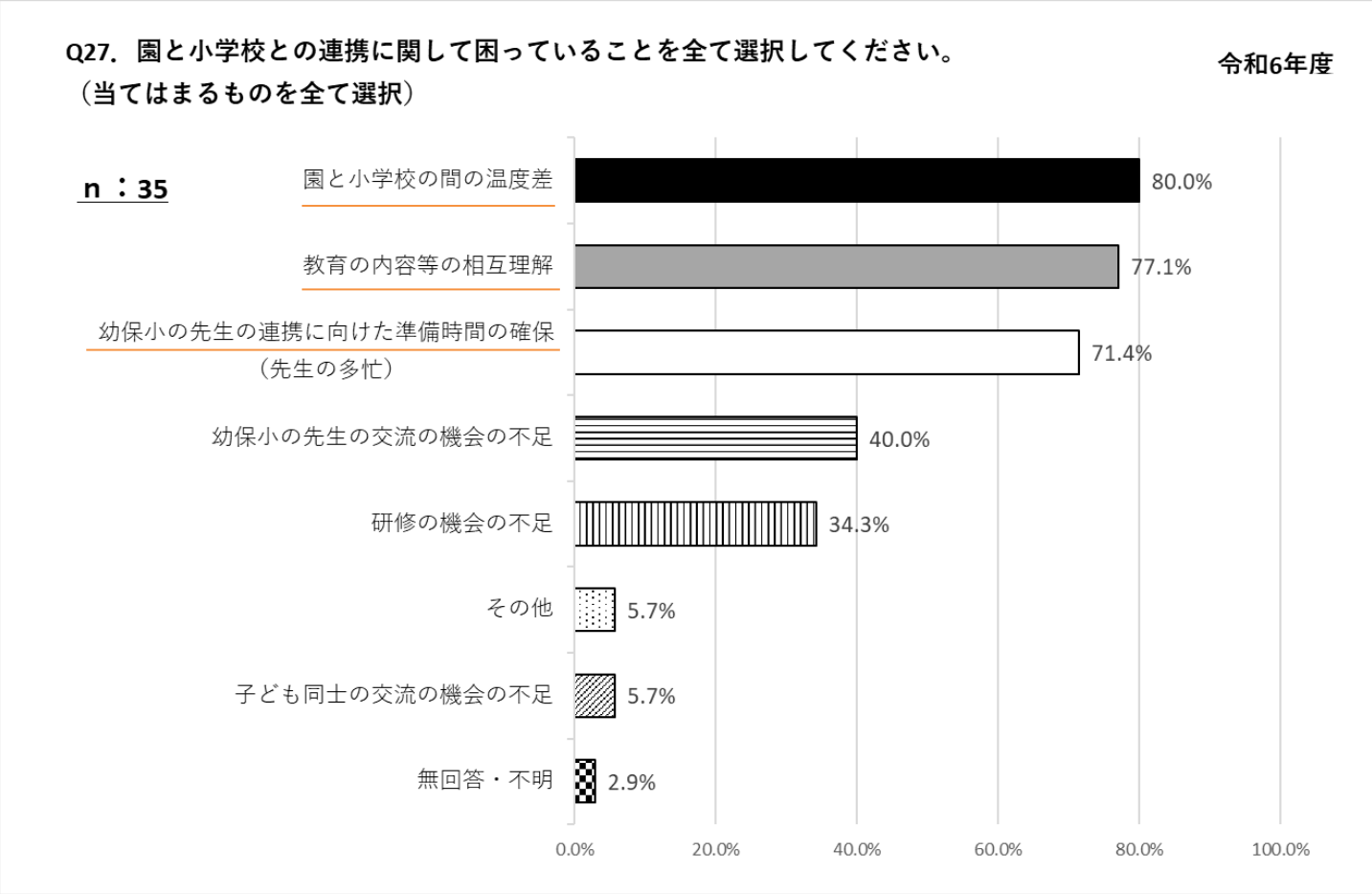
④架け橋期の教育における課題

回答した全自治体

自治体が認識する架け橋期の教育における課題

都道府県

- 園と小学校の間の温度差
- 教育の内容等の相互理解
- 幼保小の先生の連携に向けた準備時間の確保（先生の多忙）

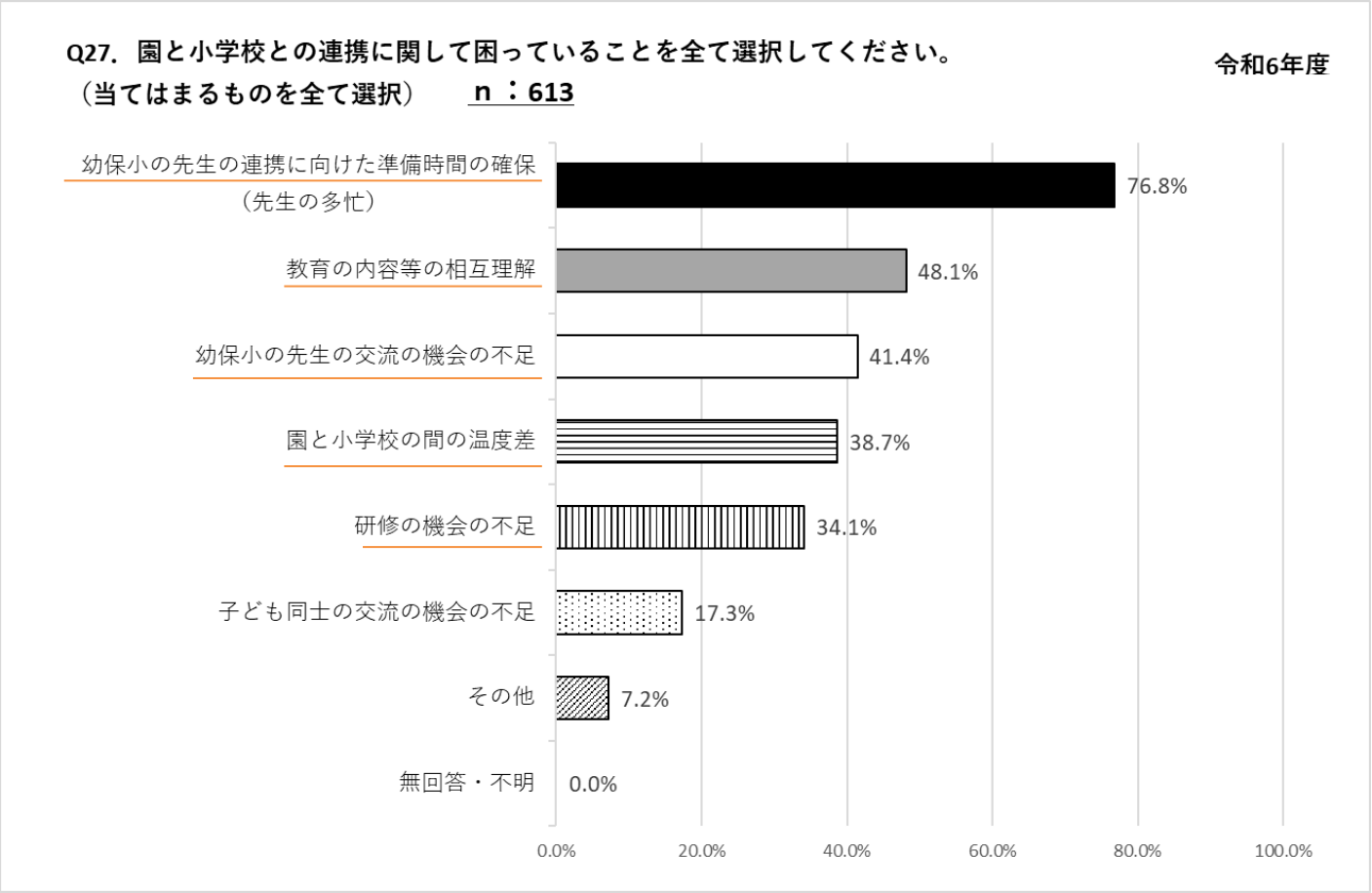


回答した全自治体

自治体が認識する架け橋期の教育における課題

市町村

- 幼保小の先生の連携に向けた準備時間の確保（先生の多忙）
- 教育の内容等の相互理解
- 幼保小の先生の交流の機会の不足
- 園と小学校の間の温度差
- 研修の機会の不足



２）アンケート調査の自由記述の質的分析結果

分析の概要

- 園・校関係者（管理職・担任）と架け橋期のコーディネーターの自由記述のテキスト分析を実施
- 園・校関係者の設問「今年度の幼保小の接続の取組を通して、先生による子供への関わりや指導方法には、どのような変化があったか」の回答の分析
- 架け橋期のコーディネーターの設問「幼保小の接続における成果として実感していること」の回答の分析
- 3年間の自由記述全体から読み取れることを分析
- 解析にはKH Coder 3.0を使用。テキスト内で頻繁に共に出現する単語同士の関係をネットワーク構造で可視化する共起ネットワーク分析を実施
  - 共起ネットワークの分析においては、単語群をクラスタリングし、関連するテーマを抽出するmodularityおよび異なる単語群をつなぐ「橋渡し」となる単語を特定する媒介中心性分析の2つを実施

園・校の変化（全体像）

- 園・校双方で教育・保育の改善に向かった。
- 園では、小学校を意識した活動・環境の工夫がなされるようになった。
- 小学校では、幼児期の学びを生かした授業が実施され、1年生の入学後のスムーズな移行につながった。

園における変化

□ 小学校教員との交流や授業参観を通じた意識の変化

- 小学校の授業や環境を理解し、5歳児の保育に反映
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を強く意識

□ 幼児期の体験・経験を重視した保育の強化

- 主体的な遊びを促す環境の構成の一層の工夫
- 5歳児が自分の考えを言語化する機会の増加

□ 小学校を意識した活動

- 小学校生活への期待を高めるため、１年生との交流活動を増加
- 小学校の学習環境を参考にした活動を導入

□ 小学校就学への期待を高める取組

- 5歳児が安心して入学できるよう、小学校の生活習慣や学び方を体験する機会を提供
- 小学校見学や、1年生との交流活動の増加

園における変化

◘ 小学校教員との交流や授業参観を通じた意識の変化

- 小学校の授業や環境を理解し、5歳児の保育に反映
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を強く意識

◘ 幼児期の体験・経験を重視した保育の強化

- 主体的な遊びを促す環境の構成の一層の工夫
- 5歳児が自分の考えを言語化する機会の増加

◘ 小学校を意識した活動

- 小学校生活への期待を高めるため、1年生との交流活動を増加
- 小学校の学習環境を参考にした活動を導入

◘ 小学校就学への期待を高める取組

- 5歳児が安心して入学できるよう、小学校の生活習慣や学び方を体験する機会を提供
- 小学校見学や、1年生との交流活動の増加

園における変化

◘ 小学校教員との交流や授業参観を通じた意識の変化

- 小学校の授業や環境を理解し、5歳児の保育に反映
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を強く意識

◘ 幼児期の体験・経験を重視した保育の強化

- 主体的な遊びを促す環境の構成の一層の工夫
- 5歳児が自分の考えを言語化する機会の増加

◘ 小学校を意識した活動

- 小学校生活への期待を高めるため、1年生との交流活動を増加
- 小学校の学習環境を参考にした活動を導入

◘ 小学校就学への期待を高める取組

- 5歳児が安心して入学できるよう、小学校の生活習慣や学び方を体験する機会を提供
- 小学校見学や、1年生との交流活動の増加

園における変化

□ 小学校教員との交流や授業参観を通じた意識の変化

- 小学校の授業や環境を理解し、5歳児の保育に反映
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を強く意識

□ 幼児期の体験・経験を重視した保育の強化

- 主体的な遊びを促す環境の構成の一層の工夫
- 5歳児が自分の考えを言語化する機会の増加

□ 小学校を意識した活動

- 小学校生活への期待を高めるため、１年生との交流活動を増加
- 小学校の学習環境を参考にした活動を導入

□ 小学校就学への期待を高める取組

- 5歳児が安心して入学できるよう、小学校の生活習慣や学び方を体験する機会を提供
- 小学校見学や、1年生との交流活動の増加

園における変化

□ 小学校教員との交流や授業参観を通じた意識の変化

- 小学校の授業や環境を理解し、5歳児の保育に反映
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を強く意識

□ 幼児期の体験・経験を重視した保育の強化

- 主体的な遊びを促す環境の構成の一層の工夫
- 5歳児が自分の考えを言語化する機会の増加

□ 小学校を意識した活動

- 小学校生活への期待を高めるため、１年生との交流活動を増加
- 小学校の学習環境を参考にした活動を導入

□ 小学校就学への期待を高める取組

- 5歳児が安心して入学できるよう、小学校の生活習慣や学び方を体験する機会を提供
- 小学校見学や、1年生との交流活動の増加

小学校における変化

□ 幼児期の学びを意識した授業の工夫

- 園での遊びや経験を活かし、導入活動に体験的要素を取り入れ
- 子供が「考える」力を伸ばす指導を意識

□ 遊びを取り入れた学習活動の拡充

- 生活科や国語科の授業で遊びの要素を取り入れ、学習への興味を喚起
- 各教科等の学習の中でも幼児期の経験を活かす活動の増加

□ スタートカリキュラム導入で柔軟な時間設定

- 小学校生活へ円滑な接続を図るため、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の充実
- 1学期の前半は体験的な活動の時間を多く確保し、子供の学びのスタートをサポート

□ 子供の主体性・協働性を重視した学習環境の整備

- 授業の中で子供が自分の意見を言える場面を増加
- 話合い活動等の協働的に学ぶ機会を重視

小学校における変化

◘ 幼児期の学びを意識した授業の工夫

- 園での遊びや経験を活かし、導入活動に体験的要素を取り入れ
- 子供が「考える」力を伸ばす指導を意識

◘ 遊びを取り入れた学習活動の拡充

- 生活科や国語科の授業で遊びの要素を取り入れ、学習への興味を喚起
- 各教科等の学習の中でも幼児期の経験を活かす活動の増加

◘ スタートカリキュラム導入で柔軟な時間設定

- 小学校生活へ円滑な接続を図るため、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の充実
- 1学期の前半は体験的な活動の時間を多く確保し、子供の学びのスタートをサポート

◘ 子供の主体性・協同性を重視した学習環境の整備

- 授業の中で子供が自分の意見を言える場面を増加
- 話合い活動等の協働的に学ぶ機会を重視

小学校における変化

◘ 幼児期の学びを意識した授業の工夫

- 園での遊びや経験を活かし、導入活動に体験的要素を取り入れ
- 子供が「考える」力を伸ばす指導を意識

◘ 遊びを取り入れた学習活動の拡充

- 生活科や国語科の授業で遊びの要素を取り入れ、学習への興味を喚起
- 各教科等の学習の中でも幼児期の経験を活かす活動の増加

◘ スタートカリキュラム導入で柔軟な時間設定

- 小学校生活へ円滑な接続を図るため、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の充実
- 1学期の前半は体験的な活動の時間を多く確保し、子供の学びのスタートをサポート

◘ 子供の主体性・協同性を重視した学習環境の整備

- 授業の中で子供が自分の意見を言える場面を増加
- 話合い活動等の協働的に学ぶ機会を重視

小学校における変化

□ 幼児期の学びを意識した授業の工夫

- 園での遊びや経験を活かし、導入活動に体験的要素を取り入れ
- 子供が「考える」力を伸ばす指導を意識

□ 遊びを取り入れた学習活動の拡充

- 生活科や国語科の授業で遊びの要素を取り入れ、学習への興味を喚起
- 各教科等の学習の中でも幼児期の経験を活かす活動の増加

□ スタートカリキュラム導入で柔軟な時間設定

- 小学校生活へ円滑な接続を図るため、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の充実
- 1学期の前半は体験的な活動の時間を多く確保し、子供の学びのスタートをサポート

□ 子供の主体性・協同性を重視した学習環境の整備

- 授業の中で子供が自分の意見を言える場面を増加
- 話合い活動等の協働的に学ぶ機会を重視

小学校における変化

◘ 幼児期の学びを意識した授業の工夫

- 園での遊びや経験を活かし、導入活動に体験的要素を取り入れ
- 子供が「考える」力を伸ばす指導を意識

◘ 遊びを取り入れた学習活動の拡充

- 生活科や国語科の授業で遊びの要素を取り入れ、学習への興味を喚起
- 各教科等の学習の中でも幼児期の経験を活かす活動の増加

◘ スタートカリキュラム導入で柔軟な時間設定

- 小学校生活へ円滑な接続を図るため、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の充実
- 1学期の前半は体験的な活動の時間を多く確保し、子供の学びのスタートをサポート

◘ 子供の主体性・協同性を重視した学習環境の整備

- 授業の中で子供が自分の意見を言える場面を増加
- クラス活動での話合い活動等の協働的に学ぶ機会を重視

架け橋期のコーディネーターの認識

◘ 子供の姿の変化

- 小学校1年生が積極的に学び、小学校生活に適応する様子が見られるようになった
- 登校渋りや適応の課題が減少し、安心して学校生活を送る姿が確認された
- 5歳児と小学校1年生の交流を通じて、互いに学び合い、社会性や協調性などの資質・能力の向上が認められた

◘ 園での保育の改善

- 小学校教育を意識したカリキュラムの見直しや、活動の工夫が行われた
- 小学校や他園と互いの実践を「見る」機会が増えたことで、園での先生の指導方法が改善された

◘ 小学校の先生の意識変化

- 幼児期の教育を「見る」ことで、遊びを通した学びの重要性を認識し、小学校の授業にも遊びを取り入れるようになった
- 園の先生の支援の仕方を学び、子供への関わり方や授業の設計を工夫するようになった
- 幼児教育と小学校教育の連続性を意識し、生活科の授業や架け橋期のカリキュラムの改善に繋がった

架け橋期のコーディネーターの認識

◘ 子供の姿の変化

- 小学校1年生が積極的に学び、小学校生活に適応する様子が見られるようになった
- 登校渋りや適応の課題が減少し、安心して学校生活を送る姿が確認された
- 5歳児と小学校1年生の交流を通じて、互いに学び合い、社会性や協調性などの資質・能力の向上が認められた

◘ 園での保育の改善

- 小学校教育を意識したカリキュラムの見直しや、活動の工夫が行われた
- 小学校や他園と互いの実践を「見る」機会が増えたことで、園での先生の指導方法が改善された

◘ 小学校の先生の意識変化

- 幼児期の教育を「見る」ことで、遊びを通した学びの重要性を認識し、小学校の授業にも遊びを取り入れるようになった
- 園の先生の支援の仕方を学び、子供への関わり方や授業の設計を工夫するようになった
- 幼児教育と小学校教育の連続性を意識し、生活科の授業や架け橋期のカリキュラムの改善に繋がった

架け橋期のコーディネーターの認識

◘ 子供の姿の変化

- 小学校1年生が積極的に学び、小学校生活に適応する様子が見られるようになった
- 登校渋りや適応の課題が減少し、安心して学校生活を送る姿が確認された
- 5歳児と小学校1年生の交流を通じて、互いに学び合い、社会性や協調性などの資質・能力の向上が認められた

◘ 園での保育の改善

- 小学校教育を意識したカリキュラムの見直しや、活動の工夫が行われた
- 小学校や他園と互いの実践を「見る」機会が増えたことで、園での先生の指導方法が改善された

◘ 小学校の先生の意識変化

- 幼児期の教育を「見る」ことで、遊びを通した学びの重要性を認識し、小学校の授業にも遊びを取り入れるようになった
- 園の先生の支援の仕方を学び、子供への関わり方や授業の設計を工夫するようになった
- 幼児教育と小学校教育の連続性を意識し、生活科の授業や架け橋期のカリキュラムの改善に繋がった

架け橋期のコーディネーターの認識

◘ 子供の姿の変化

- 小学校1年生が積極的に学び、小学校生活に適応する様子が見られるようになった
- 登校渋りや適応の課題が減少し、安心して学校生活を送る姿が確認された
- 5歳児と小学校1年生の交流を通じて、互いに学び合い、社会性や協調性などの資質・能力の向上が認められた

◘ 園での保育の改善

- 小学校教育を意識したカリキュラムの見直しや、活動の工夫が行われた
- 小学校や他園と互いの実践を「見る」機会が増えたことで、園での先生の指導方法が改善された

◘ 小学校の先生の意識変化

- 幼児期の教育を「見る」ことで、遊びを通した学びの重要性を認識し、小学校の授業にも遊びを取り入れるようになった
- 園の先生の支援の仕方を学び、子供への関わり方や授業の設計を工夫するようになった
- 幼児教育と小学校教育の連続性を意識し、生活科の授業や架け橋期のカリキュラムの改善に繋がった

３）自治体、園・校でのヒアリングの質的分析結果

分析の概要

- 採択自治体において、自治体担当者、協力園（管理職・担任）、協力小学校（管理職・担任）にヒアリング調査を実施（協力園は原則2園）。
- 取組の開始からの変化が表れてきていることが想定される事業2年目（令和5年度）のヒアリング調査に焦点を当てて分析した。
- ここでは、協力園・協力小学校の管理職・担任へのヒアリングの分析結果を紹介。

分析手順

1. ヒアリング調査のトランスクリプトを読み、質問内容を踏まえ、園内・校内の取組、園・校との連携、自治体との連携の観点から語りを抽出した。
2. 抽出された語りの内容を熟読し、架け橋プログラムの取組による実践や意識の変化や、その要因となりうる園と小学校の連携の状況について語られている内容を整理した。

園・校の先生の実践・意識の変化

実践の変化

- 子供の声を聞くこと
- 子供の主体性・協同性の重視
- 新たな環境の設定

意識の変化

- 幼児教育・5歳児のイメージの変化／小学校教育・1年生のイメージの変化
- 5歳児と小学校１年生のつながりの意識

園の先生の実践・意識の変化

5歳児と小学校1年生のつながりの意識

子供の主体性・協同性の重視

小学校生活を楽しみに思えるような気持ちを遊びや生活、友達とのかかわりの中でたくさん耕していくことが接続という意味で大事なのかなと思う。好き勝手ではない主体性とその中にある決まりを考えて作って守っていく気持ちよさは、社会に出ていく中で大事だなと感じる。（担任）

園の先生の実践・意識の変化

子供の主体性・協同性の重視

子供の声を聞くこと

自分で考えるとか、友達同士で相談したりしながら解決していくことを大事にしている。意識するとしないではすごい違う。（子供同士の）振り返りを大切にしていて、振り返る中で深まったり、次の活動に取り入れたりしている。（担任）

小学校の先生の実践・意識の変化

小学校1年生のイメージの変化

5歳児と小学校１年生のつながりの意識

子供の声を聞くこと

園の先生方から直接話を聞くことができ、「1から教える」という意識だったものが、「つながったところからのスタート」という意識をもつようになった。生活科を中心に架け橋の活動をしているが、「幼稚園、保育園ではどんなことをしたかな？」という導入のスタートをするようになったり、声かけや活動の作り方が変わった。（担任）

小学校の先生の実践・意識の変化

子供の声を聞くこと

子供の主体性・協同性の重視

教室環境がよいからこそ、人に見てもらうとか友達に何かしてあげるというのが好きになり、よいつながりが生まれている。「1年生になるのが、自分たちはやっぱり不安だった」ということを一人の子供がボソッと言ったことを「どうして？」「どんなことが不安だったの？」と聞いたら、たくさん出てきて、それを5歳児に伝える「なかよしパーティをしよう」ということになった。「何か遊びで伝えたい」というところでカルタが出て、子供たちが（カルタの）言葉も考えた。自分たちで全部作り上げたという思いがあり、園に行ったときに5歳児に対して、教師自身も嬉しくなるくらいよい関わりをしていた。（担任）

変化の要因

	自治体の取組への示唆
合同会議等での率直な話し合い 共通の視点・カリキュラムの共有	率直な話し合いができる場の設定 教育的な視点の共有
保育・授業参観での気付き 子供同士の交流を通した気付き	実践や子供の姿を見合うことの できる機会の創出
管理職の意識・関与 小学校1年生担任と園との関係性 ／5歳児担任と小学校との関係性	管理職と担任の両方が主体的に 関われるようにすること
架け橋期のコーディネーターの支援	架け橋期のコーディネーターの設置

変化の要因

	自治体の取組への示唆
合同会議等での率直な話し合い 共通の視点・カリキュラムの共有	率直な話し合いができる場の設定 教育的な視点の共有
保育・授業参観での気付き 子供同士の交流を通した気付き	実践や子供の姿を見合うことのできる機会の創出
管理職の意識・関与 小学校1年生担任と園との関係性／5歳児担任と小学校との関係性	管理職と担任の両方が主体的に関われるようにすること
架け橋期のコーディネーターの支援	架け橋期のコーディネーターの設置

変化の要因

	自治体の取組への示唆
合同会議等での率直な話し合い 共通の視点・カリキュラムの共有	率直な話し合いができる場の設定 教育的な視点の共有
保育・授業参観での気付き 子供同士の交流を通した気付き	実践や子供の姿を見合うことのできる機会の創出
管理職の意識・関与 小学校1年生担任と園との関係性／5歳児担任と小学校との関係性	管理職と担任の両方が主体的に関われるようにすること
架け橋期のコーディネーターの支援	架け橋期のコーディネーターの設置

変化の要因

	自治体の取組への示唆
合同会議等での率直な話し合い 共通の視点・カリキュラムの共有	率直な話し合いができる場の設定 教育的な視点の共有
保育・授業参観での気付き 子供同士の交流を通した気付き	実践や子供の姿を見合うことのできる機会の創出
管理職の意識・関与 小学校1年生担任と園との関係性 ／5歳児担任と小学校との関係性	管理職と担任の両方が主体的に関われるようにすること
架け橋期のコーディネーターの支援	架け橋期のコーディネーターの設置

変化の要因

	自治体の取組への示唆
合同会議等での率直な話し合い 共通の視点・カリキュラムの共有	率直な話し合いができる場の設定 教育的な視点の共有
保育・授業参観での気付き 子供同士の交流を通した気付き	実践や子供の姿を見合うことの できる機会の創出
管理職の意識・関与 小学校1年生担任と園との関係性 ／5歳児担任と小学校との関係性	管理職と担任の両方が主体的に 関われるようにすること
架け橋期のコーディネーターの支援	架け橋期のコーディネーターの設置

合同会議等での率直な話し合い	• 顔の見える関係は作り続けて行かないといけない。幼保の先生と、子供の姿や子供をどういうふうに育てるかについて話したことがなかったので、とてもよい機会だった。（校長）
共通の視点・カリキュラムの共有	• 「ぐるぐるシート」（実践をデザインや振り返りをするためのシート）は、わかりやすいし整理しやすい。担任の先生の子供の発達の読み取りがすごく変わった。発達の流れの道筋が明確になった。（園長）

保育・授業参観での気付き	• 国語科の授業を主任の先生と見に行ったが、自分の思いを表現することは幼児期から大事にしていかないといけない、感性を言葉にしたり絵にしたりを蓄えておくのは大事だと授業を見て思った。（園長）
子供同士の交流を通した気付き	• 子供たちが振り返りの時に、「幼稚園生が一生懸命こんなことをしていたのがすごいと思いました」というのがあって、幼稚園生の頑張りも言えていたのがすごいと思った。（小学校担任）

管理職の意識・関与	• 開発会議には園長が参加し、ワーキングには5歳児担任が参加する。（園長） • 小学校1年生だけの取組にはしたくないと思っており、学校全体としての取組としたい。（校長）
小学校1年生担任と園との関係性／5歳児担任と小学校との関係性	• 交流では打ち合わせを何度もする。（園担任） • 幼稚園と小学校で連携することが当たり前になっている。（小学校担任）

架け橋期のコーディネーターの支援	• 職員会議とかで幼児教育アドバイザーが行事や子供姿を伝えてくださり、クラスの先生方も架け橋の取組について意識するようになっている。（園副園長） • 架け橋期のコーディネーターの先生の存在は大きい。幼小の連携、授業そのものについても指導いただける。（校長）

４）今後に向けて

今後に向けて

- アンケート調査（自治体回答）からは、連携に向けた準備のための時間の確保や、教育内容の相互理解等が課題として挙げられている。

- 採択自治体において、協力園・協力小学校以外の園・校に取組を広げていくことや、これまでの取組を持続可能なものにしていくことは、今後の課題である。特に、園は私立も多く、理解や取組の共有が難しい場合も多い。

- R4～R6での協力園・協力小学校での実践事例を、事例集や動画等で共有する自治体もある。

- 採択自治体以外の自治体に取組を広げていくことも課題である。

付記

本報告は、文部科学省委託「幼保小の架け橋プログラムのモデル地域における成果に係る調査研究」の結果に基づく。文部科学省から委託を受けた株式会社Gakkenから東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）が再委託を受け、調査の計画・実施・分析に関わった。CEDEPでは、高橋翠（助教）、浜名真以（特任助教）が携わり、アンケート調査の分析は高橋翠助教が担当したものである。

有識者委員会を設置し、委員会からのアドバイス・知見を踏まえて調査の実施・分析を行った。採択自治体担当者へのヒアリングならびに実地調査は、協力研究者の委嘱し、協力を得て実施した。

調査にご協力いただきました皆様に心より感謝御礼申し上げます。

※本日の内容は、最終の分析を行っている最中の現時点版です。最終報告書は4月以降に文部科学省のHPに掲載予定です。